

スターターを活用して元気で商品性の高い子牛生産

2011. 10. 12-13 市場研修会 おおいた肉用牛振興協議会

1 スターターって何？

- ・一般的にペレット状で子牛育成期用の飼料に比べて高エネルギーで消化速度が速い飼料です。

2 スターターはなぜ必要？

- ・牛の第1胃は概ね生後3ヶ月から12ヶ月齢の間に発達します。
(出生児の第1胃の重さは第4胃の半分程度しかなく、固形飼料の摂取により急速に発達し、3ヶ月齢程度で第4胃の4倍となり、機能もほぼ成牛なみとなります。)
- ・第1胃が発達していない子牛に粗飼料を給与しても栄養として十分に体内に取り込むことが出来ません。
(特に、生後3ヶ月までの間は、粗飼料の食い込みが良く腹囲が充実していても必要な栄養を取り込もうとして胃拡張になっているだけかもしれません。)
- ・母牛の泌乳量は、個体や産歴によっても異なり、また、分娩後ピークを迎えた後は日を追って減少します。
(子牛がいつも乳房に吸い付いている等の場合、泌乳量が不足していることがあるので、代用乳の給与も検討しましょう。)



- ・必要な栄養が不足する恐れがあります。

3 スターターの効果は？

- ・骨、筋肉の成長を促します。
(哺育期(生後～90日齢)は骨、筋肉の成長が盛んな時期です。出荷時の体高を確保するためにも第4胃以降で効率的に消化吸収されるスターターの給与が重要です。)
- ・第1胃の機能を発達させます。
(スターターは、反芻胃内で微生物・細菌により醗酵、分解されて揮発性脂肪酸(VFA)となり、これが、反芻動物にとって重要な反芻胃の上皮や絨毛の発達に大きく寄与します。)

4 注意点は！

重要

- ・飲水を十分与える。
- ・急激に給与量を変化させない。
(胃内のph等の変化により微生物の構成が変わると、回復するまでの間(数週間)飼料からの栄養を十分に取り込めなくなります。)
- ・急激に飼料を変化させない。
(スターターから育成用飼料への切り替えは1～2週間かけてゆっくりと行います。)
- ・給与量は牛の状態を確認しながら決定しましょう(裏面参照)。

※ご不明な点は、最寄りの振興局にお尋ね下さい。

5 最後に

- ・栄養状態の良い牛は、病原体に対する抵抗力も高く、発育も能力いっぱい発揮します。この時期にフレーム(体格;体高等)をしっかりと確保しましょう。



豊後牛子牛飼料給与体系

豊後
 大分県畜産試験場
 おおいた畜産牛産肉検査会
 全国農業者同組合連合会大分県本部
 ジェイエイま九州くみあい農科

1日1頭当り給与量(kg) 平成17年5月作成

| 月 齢 | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 備 考 |
|---------------------|---|--|--|---|--|--|---|--|--|---|
| 日 齢 | 30 | 60 | 90 | 120 | 150 | 180 | 210 | 240 | 270 | ※飼料は必ず量って給与しましょう |
| 体高 (去勢子牛) | 73 | 81 | 87 | 93 | 98 | 102 | 106 | 110 | 113 | ※飼料・水は毎日清潔にしましょう |
| cm (雌子牛) | 67 | 78 | 84 | 90 | 95 | 99 | 103 | 106 | 109 | |
| 体重 (去勢子牛) | 34 | 56 | 78 | 101 | 128 | 156 | 186 | 218 | 250 | ※清乳の早期発見のため、毎日よく観察しましょう |
| kg (雌子牛) | 28 | 45 | 66 | 90 | 116 | 142 | 170 | 198 | 224 | |
| (モーレット) | 0.2~0.5 | 0.5~1.0 | 1.0~1.5 | | | | | | | |
| モーレットの給与量 (まごころえづけ) | 0.2~0.6 | 0.6~1.1 | 1.1~1.7 | | | | | | | |
| まごころ又は豊後牛育成 (去勢子牛) | | | 0~0.5 | 2.0~2.5 | 2.5~3.0 | 3.0~4.0 | 4.0~4.5 | 4.5 | 4.5 | ※雌子牛の給与量は3か月齢からは去勢の90%を目安とし、算出する子牛の現量は「豊後牛育成用」を給与する |
| (雌子牛) | | | 0~0.5 | 2.0~2.2 | 2.2~2.7 | 2.7~3.6 | 3.6~4.1 | 4.1 | 4.1 | |
| 良 質 乾 草 | 0.2 | 0.2~0.5 | 0.5~1.0 | 1.0~1.5 | 1.5~2.0 | 2.0~2.8 | 2.8~3.0 | 3.1~3.5 | 3.5~4.0 | ※生後7日目ぐらいから、濃厚飼料を数杯口に入れてやり濃厚飼料の味に慣れさせると早くから食べるようになります。すぐにはき出すからといってあきらめずに反響に慣れてください |
| 福 わ ら | | | | | | 0.2 | 0.2~0.5 | 0.5 | 0.5 | |
| 飼育管理のポイント | <ul style="list-style-type: none"> 生後3週までは必ず量りましょう 清乳を30分以内に取らせましょう 生後1週間から人工乳を給与し、早く飲みに慣れさせましょう 水が十分飲めるようにしてください 子牛の下痢に注意しましょう 常時健康牛として管理する牛は除糞を行いましょ コクシジウムの予防を行いましょ (15日齢~20日齢) 感染予防を行いましょ (15日齢) | <ul style="list-style-type: none"> 規定量の人工乳を確実に投与せましょ 子牛の下痢に注意しましょ 授乳量が少ない場合は早めに発見しましょ | <ul style="list-style-type: none"> 規定量の人工乳を確実に投与せましょ 1~2週間かけて青飼料を給与せましょ 授乳しましょ (80日齢) | <ul style="list-style-type: none"> 濃厚飼料・濃厚飼料の食い込みを十分注意しましょ | <ul style="list-style-type: none"> 去勢をしましょ (3~4か月齢) 授乳を中止せましょ (授乳停止のため) 授乳を再開しましょ | <ul style="list-style-type: none"> 長ぐりをとらしましょ | <ul style="list-style-type: none"> 飼料を交換しましょ 濃厚飼料は4.5kgを上限とし、不足する場合は濃厚飼料を追加せましょ | <ul style="list-style-type: none"> 発育の良い牛は早めに出ましょ | <ul style="list-style-type: none"> 濃厚飼料を摂取するようになるまで給水が必要で、母牛につけた濃厚飼料でも給水する必要があるが、下痢発症時には十分補給する必要があります | |